

日本の展示会産業の発展を支えてきた方々の思い出を三浦忠夫さん(元日展協副会長)に語っていただいた。同氏は、長い間、日展協の発展に、多大なる貢献があった方である。

日展協の思い出 「展示会を支えた人々」

2016年3月
三浦 忠夫(元日展協副会長)

＜展示会を支えた人たち＞

戦後の経済復興の下で、展示会産業も発展して来たわけだが、展示会には多くの人々が関係する。主催者だけでなく出展者、来場者を始め、展示会場を提供する施設関係者、電気工事、装飾、水道、清掃、運送、会場整理、備品レンタル等展示会に関係する協力企業などである。特に展示会の準備には大変な労力が費やされる。展示会が準備を終えて明日オープンを迎えるという時は、すでにあらかた成功していると言える。その準備段階で最も力を発揮するのが協力企業の人たちだ。正に展示会の影の立役者と言える。彼らがいなくて展示会は成り立たない。日展協50周年を振り返り、私が印象に残った「展示会を支えた人たち」を語ってみたい。

＜その1＞ 「協力企業の中心的存在の心優しき人」
株式会社飯田電機工業 飯田 発三郎さん

＜その2＞ 「朝暗いうちから雪掻き」
株式会社イン・サポート 後藤 勝さん

＜その3＞ 「展示会の創世期を担った人」
株式会社アド・ポイント 鈴木 英之さん

＜その4＞ 「大きな倉庫にレンタル備品を確保」
株式会社ヒラツカ・リース 平塚 克寿郎さん

＜その5＞ 「英国のガーデニング・ショーを目指す」
株式会社花とみどり社 深井 米三さん

＜その6＞ 「来場者の整理・誘導の極意」
株式会社ケン&スタッフ 山本 正明さん

＜その7＞ 「施設からみた展示会の情報通」
株式会社晴海ヴォワール 石丸 忠男さん

＜その8＞ 「展示会の環境問題の調査研究を実施」
拓殖大学 寺澤 勉先生

＜その9＞ 「展示会用語集の作成に尽力」
JPCA 中山 秀子さん

＜その1＞展示会支援企業

飯田電機工業社長 飯田 発三郎さん 協力企業の中心的存在の心優しき人

飯田電機工業は、昭和32年の会社設立以来一貫して展示会、博覧会、各種公演などイベントの電気工事に注力してきた。私が展示会の仕事を始めるようになった昭和48年(1973年)は、まだ展示会場は晴海埠頭にあり「東京国際展示会場」と言っていた。そこで展示会の”いろは”から学ばせていただいた。当時、晴海で展示会の仕事をする人たちのことを、「晴海村」と呼んでいた。私にとっての教師は展示会場の人々や電気、装飾、清掃、水道、運送、警備、受付や会場整理などを扱う企業の人たちであった。

昭和48年という年は、ベトナム戦争の和平交渉が調印され、第4次中東戦争が勃発し、パレスチナゲリラによる日航機ハイジャック事件や金大中事件やオイルショックなどが相次いでおこり、世の中は騒然としていたが、日本は経済発展のただ中にあり、各業界は拡大発展のため業種別展示会が盛んに開催され、私が勤めていた業界団体の展示会である「JPCA」も年々拡大の一途を辿っていた。

そのような環境を背景として、展示会の仕事もどんどんと専門的になり、協力企業の力がますます必要とされてきた。そんな中で施設、主催者、専門業者を束ねる大きな存在として飯田電機工業の社長の飯田発三郎さんがいた。

当時、私が30歳を越えたばかりの頃で飯田社長はゆうに50歳を越えていた大ベテランだった。お陰で展示会に関する色々なことを学ばせてもらった。特に対人関係の大切さを教えていただいた。飯田社長はどんな立場の人に対してもいつも同じ態度で接していたことを思い出す。数々のことを学ばせてもらい未だに感謝の気持ちでいっぱいである。彼と接した多くの人々、施設の人も主催者の人も同業者の人もみんな同じ気持ちを持っていた。それは彼が亡くなった後に開かれたお別れ会によく表れていた。何と1,000人以上の人々が彼との別れを惜しんだ。

＜その2＞展示会支援企業

株式会社イン・サポート社長 後藤 勝さん 朝暗いうちから雪掻き

後藤勝さんは、東京晴海の国際見本市会場において、昭和45年より会場清掃のパイオニアとして25年間に渡り活躍し、その蓄積されたノウハウと知識をもって平成7年にイン・サポートを設立した。現在は東京ビッグサイト、幕張メッセを主に屋内外のイベント会場の清掃及びビル管理を行っている。

彼の会社の仕事は、展示会場ホール、各小間、通路、休憩所、トイレにいたるまで、展示会に関わる全ての場所の清掃だ。私が担当したJPCAショーでも展示会場の清掃をお願いしてきた。

どんな展示会でも、まず一番に感じるのは会場が綺麗に清掃されているかどうかだ。来場者が沢山来る展示会場での清掃は気の抜けない仕事だ。彼の仕事の時間帯は展示会が開会時間だけではない。むしろ展示会終了後の方が忙しく大変だ。

昔の晴海展示会場は、広い敷地の中に東館、西館、南館、新館、A館、B館があり、建物がそれぞれ別れており、その間を通路で結んでいた。一番大変なのは大雪の時だ。大雪の時は朝も暗いうちから雪掻きをして展示会の関係者やその後の来場者が来るまでには、ホールとホール間の通路の雪かきを終わっていないと行かない。飯田さんらは、施設側や主催者から依頼された訳でもないのに、自発的に雪かきをやっていたのだ。しかも、何気なく自然とやっけてのける。この話を聞いたときに、後藤勝社長がいかに展示会の安全、安心を大切にしているのがよく理解できた。

＜その3＞展示会支援企業

株式会社アド・ポイント社長 鈴木 英之さん 展示会の創世期を担った人

鈴木英之さんは昭和45年(1970年)にアド・ポイントを設立した。昭和45年は、日本万国博覧会の開幕、日航「よど号」事件、東京市ヶ谷の自衛隊駐屯地に三島由紀夫が乱入した三島事件等があった年である。テレビでは「あしたのジョー」が話題になっていた頃で、まだまだ日本が騒然としていた時代だ。そんな時に鈴木さんは装飾会社「アド・ポイント」を立ち上げた。

今では、アド・ポイントは数多くの展示会で培ってきた実績と経験で、展示会ブースの設計施行、装飾、ディスプレイ、設計パネルの製作、備品・映像機器のレンタル、集客スタッフの手配など展示会に関するすべてことを一元管理し、出展者の負担を軽減し、効率の良い出展をサポートする有数の展示会専門会社に成長した。

私は、昭和48年(1973年)に日本プリント回路工業会に入り、JPCAショーの担当になり、以来鈴木さんにJPCA Aショーの展示会場の基礎小間づくりを永いことやってもらってきた。その間ずっと一緒になってJPCAショーの発展を見ていただいた。その意味で、私の展示会づくりの恩人だ。おかげで彼から展示会作りのことを随分学んだ。そのときの経験がその後の私の日展協での仕事の礎となっている。

当時、晴海で展示会の仕事に携わる人たちは仲間意識が強く、会社は違ってもみんなで助け合って展示会の準備の仕事していた。彼もそんな仲間の一人だった。その彼も年には勝てず、昨年2014年に80歳で亡くなった。日本の展示会創世期の一翼を担ってきた人だった。

＜その4＞展示会支援企業

株式会社ヒラツカ・リース社長 平塚 克寿郎さん 大きな倉庫にレンタル備品を確保

ヒラツカ・リースは、展示会・各種イベント用什器・備品などのレンタル・リース業並びに製造販売をしている企業で、昭和52年(1977年)に平塚克寿郎さんが立ち上げた。今では什器・備品を何千坪もある倉庫に保管し、配送している独占企業だが、そこまでいくには大変な苦労があったという。

私が担当したJPCAショーでもヒラツカ・リースに備品を色々お願いした。今では、情報コミュニケーションのカタチがますます多様化しており、レンタルだからできることが数多くある。求められる様々な色、形、サイズ、デザインそして機能等の要求に対して豊富な商品ラインナップでクライアントのニーズに対応できる。イベントの環境負荷軽減にも大きく役立つとともに、新しいコミュニケーション空間づくりに役立てるよう活動している。

しかし今では考えられないことが昔はあったという。晴海時代の初めの頃の展示会は、リースで貸したテーブルや椅子や冷蔵庫等を展示会が終わって小間を撤去する際に、出展者が自分ものと一緒に持って帰ってしまうことが多かったという話を平塚克寿郎社長から聞いたものだ

＜その5＞展示会支援企業

株式会社花とみどり社社長 深井 米三さん イギリスのガーデニング・ショーを目指す

花とみどり社は、昭和42年(1967年)に創立された。現在は都心のオフィス、ショールーム、店舗にレンタルグリーンを提供するほか、東京ビッグサイト、幕張メッセなど都内主要イベント会場へ和・洋風仮設庭園の提案・制作などをメインの仕事としている。またオフィス・商業施設・展示会への観葉植物のリース及び販売を行ったり、アートフラワーの施工及びリース・販売、さらには造園・花壇などの施工及びリース・販売を行ったりしている。

深井米三さんとはJPCAショーでの小間に植栽を依頼したことから始まり、その後、植栽について色々と話を伺った。深井米三さんの話によると先代のお父さんはお米屋さんだったが、先を見通して途中から今の商売に換えたという。だから彼は2代目にあたる。今は、もう息子さんが3代目を継いでいる。

展示会場には小間だけでなく休憩所も含めて色々な箇所に植栽が置いてある。来場者が会場をまわって植栽がある休憩所へ来るとホッとして息抜きができる。深井社長はもっと植栽を沢山使って来場者にとって潤いある展示会が出来たらいいなどと常に思っているという。彼は自分の夢のため毎年イギリスのガーデニング・ショウを欠かさず観に行っていると聞いた。このように自分の世界を持って、それを仕事に生かそうとしている人は素晴らしい。

＜その6＞展示会支援企業

株式会社ケン&スタッフ 社長 山本 正明さん 来場者の整理・誘導の極意

株式会社ケン&スタッフは、山本正明さんが昭和55年(1980年)に設立したコンサートや展示会などのトータルサポートをする会社である。展示会では、若いアルバイトを中心に、準備段階から出展物を搬入・搬出する運搬車の整理誘導、会期中の主催者の受付業務や来場者の整理誘導、その他主催者を色々とサポートしている業務を行っている。

私が担当したJPCAショーでもケン&スタッフに搬入時の出展者の運搬車の会場整理から来場者の会場整理、会場内の事務局の受付など他にも様々な展示会場の現場対応をお願いしてきた。

私が山本社長について覚えているのは、かなり昔になるが、幕張メッセで開かれたモーターショーの初日に皇室の方が視察に訪れた。小型の車で展示場内を回られたが、モーターショーはいつも来場者がいっぱい入っており、皇室の方が乗られた車の道を確保するのが大変。山本社長は自ら先頭に立って会場内の来場者を掻き分け車の通る道を確保していた。その時の山本社長の表情の真剣さと来場者を掻き分ける行動の機敏さを垣間見た時、ある種の凄さを感じた。普段柔和に人に接している彼とは人が変わったように感じたものだ。

＜その7＞展示会支援企業

株式会社晴海ヴォワール社長 石丸 忠男さん 施設からみた展示会の情報通

レストラン晴海ヴォワールは、展示会創生時の晴海展示会場の時代から現在の東京ビッグサイトの時代まで続いている歴史あるレストランである。創設者で社長の石丸忠男さんは晴海時代から今日まで第一線の現場で働いているだけでなく、施設側の情報通として展示会関係者に展示会まつわる様々な情報を提供してきた。

特に晴海からビッグサイトに展示会場が移転するときは、移転計画が予定より一年前倒して移ることが決まった。晴海で展示会をやる決めていた主催者はすでに案内を出しているののでんでこ舞いだった。何とか収めることが出来たが、こんな時に石丸忠男さんの持っている展示会場に関する情報が大いに役立ったと聞いている。私も施設側の様々な問題について、石丸社長を訪ねているいろいろなお話を伺って参考にすることがある。

＜その8＞大学

拓殖大学 寺澤 勉先生 展示会の環境問題の調査研究を実施

拓殖大学デザイン科の寺澤勉先生は「モーターショー」のゾーニングの仕事を永きにわたりやられていた。私が日展協で仕事をしているとき、寺澤先生から展示会のことをもっと知りたいという要望があり、先生と展示会の視察に行き、一緒に展示会の研究をしたことがある。

寺澤先生の経歴をみると、

1987年拓殖大学助教授(工学部工業デザイン学科)

1998年同大学教授(工学研究科、工学部)

1999年博士(工学)千葉大学

2001年拓殖大学工学部工業デザイン学科 学科長

2008年拓殖大学名誉教授

2010年日本デザイン学会名誉会員

となっており、他にも日本展示学会会員、日本ミュージアムマネジメント協会理事、日本ディスプレイデザイン協会理事を経て参与、東京モーターショー企画グループ委員等々の役職を担っておられた。

寺澤先生と日展協のかかわりは、2000年平成12年から実施した展示会の環境問題についてからである。当時、展示会でも環境問題が重要な問題になっており、展示会から出る廃棄物、ゴミをどう少なくするかが重要な課題だった。

東京ビックサイトの持ち主で在る東京国際見本市協会の協力を得て、東京都の補助事業として、日展協が拓殖大学の寺澤研究室の方々と一緒に「展示会廃棄物処理の現状と対策」の調査研究を実施した。国内各地の展示施設を視察し、さらに海外、特にアジアの上海、台北、シンガポールなどの国際展示場の廃棄物処理の実情を視察し、報告書をまとめ東京国際見本市協会に提出した。寺澤先生には展示会を学問的に分析することも大切なことだということをお教えされた。

＜その9＞主催者・個人

JPCA 中山 秀子さん 「展示会用語集」の作成に尽力

2011年4月4日 JPCA の中山秀子さんが逝った。享年65歳。膵臓ガンだった。すでに葬儀は家族だけで済ませた後の訃報通知だった。しかし病名は書いてなかった。だから通知を受け取った人たちはみんな驚愕した。それだけ彼女の急逝は、いつも元気で笑顔を絶やさなかった彼女を知っている人たちにとっては大変ショックだった。中山秀子さんは、JPCA(日本プリント回路工業会)に35年以上も勤め、社団法人化前の工業会の発展に貢献された。特に携帯電話の基礎であるプリント回路の展示会「JPCAショー」の初期の担当責任者で、今日のJPCAショーの発展の基礎を築いた人である。また、注目すべきは、ボランティアでも日展協の仕事を長期に渡り引き受けられた。とりわけ「展示会用語集」の作成に尽力した。今でも、用語集は、展示会業界で広く活用されている。また「日展協ビジネスカレッジ」でも中山さんが澁刺として、協力しておられた姿を思い出す。

定年後も、工業会から、それまで培ってきた展示会の経験と知識を乞われ、展示会の仕事を手伝っていたが、膵臓ガンが見つかり治療に専念していた。しかし彼女の努力も虚しく、2011年桜咲く4月4日に帰らぬ人となった。家人の話によると、本人は苦しい中、最後まで前向きに生きようという姿勢を貫いていた、と聞いている。最後まで意志の強い立派な人だった。彼女は仕事を通して、誰彼と隔てなく接してきており、老若男女を問わず誰からも慕われていた。惜しい人を亡くしたものである。このような彼女の生き方は、ビジネス社会に生きる女性の先達として、今の若いビジネスウーマンの手本と言える。

以 上